

G2 平成 22 年度活動報告

鍋倉賢治

【1】研究目的

本グループ（以下 G2）の研究目的は、新たな大学体育カリキュラムモデルの再構築である。そのために必要な課題として、文献研究（平成 21 年度に実施）、国内外の大学等のフィールド調査研究（平成 23 年度～実施）、体育センターのカリキュラムの変遷、体育センターが行なってきた体育の評価分析、などが必要である（なお、後者 2 つの課題については G1 が検討）。それらを踏まえ、G2 の 22 年度の研究課題として、①平成 23 年度に実施するカリキュラム・モデルを構築すること、②筑波大学の共通体育

のスタンダード及び成績評価基準の策定、③国内他大学のカリキュラム研究、について行なうこととした。

【2】構成員

遠藤卓郎、大高敏弘、進藤正雄、巖峨寿、鍋倉賢治、松元剛、谷川聡、福田崇、小山宏之、武田剛、武田丈太郎、吉岡利賢

【3】22 年度の活動報告

(1) 会議

表 1 会議と主なテーマ

第 1 回（4 月 21 日）	平成 21 年度の反省と、今年度の活動について（意見交換）
第 2 回（5 月 10 日）	平成 22 年度の活動方針と役割分担
第 3 回（5 月 17 日）	前年度提案したカリキュラムモデルの再検討①
第 4 回（5 月 24 日）	前年度提案したカリキュラムモデルの再検討②
第 5 回（5 月 31 日）	前年度提案したカリキュラムモデルの再検討③
第 6 回（6 月 14 日）	23 年度カリキュラム・モデルの構築①
第 7 回（6 月 21 日）	カリキュラム改革の行程について
第 8 回（6 月 28 日）	23 年度カリキュラム・モデルの構築② →7 月 2 日臨時センター会議で提案
第 9 回（8 月 9 日）	23 年カリキュラム（1 年次カテゴリーの分類） 筑波スタンダードの報告
第 10 回（10 月 8 日）	23 年カリキュラム（正課との連携）、他大学の調査検討について
第 11 回（10 月 25 日）	23 年カリキュラム、他大学の調査検討について
第 12 回（11 月 15 日）	23 年カリキュラム（成績管理について） 他大学の調査検討について
第 13 回（12 月 6 日）	23 年カリキュラム（体力測定の問題） 成績評価 WG の工程について
第 14 回（1 月 7 日）	23 年カリキュラム（体力測定の問題）について
第 15 回（1 月 21 日）	セメスター制移行に伴う授業実施方法について
第 16 回（1 月 28 日）	成績評価の方法、セメスター制移行に伴う授業実施方法について
第 17 回（2 月 18 日）	セメスター制移行に伴う授業実施方法について

(2) 各WGの報告

上記研究課題に対して、下記の3つのワーキンググループに分かれ、分担し作業を進めた。

1) 23年度カリキュラムの構築(遠藤, ○谷川, 福田, 武田剛, 鍋倉)

別報告のように、大学体育の教育理念を「筑波体育」としてまとめ、その理念と目標を達成すべく、23年度のカリキュラム(1年次用)を構築した。1年次には、偏りのない体育を学ぶために、3つのカテゴリー科目を設定し、それぞれから1科目ずつ受講するモデルを作成した。

教育理念とカリキュラムモデルを作成していく過程で、これまで実施されてきた体力測定の実施方法、履修管理と成績管理、オリエンテーションと科目選択の工夫と改善が求められた。

2) 筑波スタンダードの策定(大高, ○松元, 小山, 武田丈太郎, 鍋倉)

共通体育のスタンダードを作成し、教養教育機構に提出した。また、G3と協力し、23年度共通体育における成績評価の基準について作成し、提案した。

3) 他大学のカリキュラムの調査(進藤, ○嵯峨,

吉岡, 鍋倉)

他大学で実施している大学体育の現状を把握するために、まずはその教育理念について大学オフィシャルホームページなどから情報収集に努めている。その後、具体的なカリキュラムなどについても随時掘り下げていく予定である。

(3) 海外視察など

平成23年度は下記の概要で海外視察を行った。

なお、G2で行なった海外視察の調査概要、結果については別報告に記した。

日程：2010年6月7日～12日

場所：カリフォルニア州ロサンゼルス

目的：アメリカの大学における一般体育の現状調査

参加者：松元剛, 谷川聡

付記

本活動報告は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)(課題番号21240060)の一部である。